

武井麻子 Takeji Asako
日本赤十字看護大学教授



大和書房



武井麻子(たけい あさこ)

一九四九年、東京に生まれる。東京大学医学部保健学科卒業後、同大学院で精神衛生学を専攻する。千葉県にある民間精神科病院海上療養所にて看護師、ソーシャルワーカーとして勤務した後、千葉県立衛生短期大学助教授を経て、日本赤十字看護大学教授、看護師、保健師のほか保育士の資格をもち、保育園の給食調理員、婦人相談所の心理定員など、さまざまな職を経験している。著書には『感情と看護』『精神看護学ノート』『グループという方法』(以上、医学書院)、『レトリートとしての精神病院』(福若、ゆみる出版)などがある。

第一章 「感情労働」という心を売る仕事
第二章 ギリギリの感情労働を生き延びるために
第三章 「人のために働く人」の落とし穴
第四章 暴力を振るう男たちの弱さ
第五章 失われた感情をどう取り戻すか
第六章 「マクドナルド化」する世界
終章 感情労働の時代を生きる

その微笑みが
「偽りの自己」
「ニセ者の私」
をつくっている!!

大和書房
定価(本体1500円+税)

“笑顔で対応の仕事”や
“やさしい看護師”……
感情の演技を求められる仕事
=感情労働で
心が擦り切れないために!

心が
擦り切れない
ために!
大和書房

顧客がある特定の感情状態にするために、声のトーンや表情、態度を調整することによって自分の感情を管理する仕事を「感情労働」と呼びます。顧客と向き合っていて、ほとんどの場合、はまります。仕事場ではあくまでも「職業としての自分」を演技しなければならぬのです。それは「本当の自己」とは違う、周囲の期待に添うだけの「偽りの自己」であり、「ニセ者」です。感情労働に習熟すればするほど、他人を欺く能力が強くなっていき、本来の自分らしさが失われていく……これが感情労働の代償あるいは副作用です。その次に湧いてくるのは、怒りでした。

(本文より抜粋)